

アナウンス部門 後藤理様

参加してくれた学生の皆さん、大変お疲れ様でした。大変練習をして大会に臨んできたことがよく伝わってきました。審査員の前で披露するのは、とっても緊張したことでしょう。でも皆さんは、そんな状況の中で、よく声が出ていたと思います。まず発声の面では、十分に良い水準に達していたと感じました。今回差がついたのは、伝えるテーマや話題をどう聞いている人に楽しく、わかりやすく伝えているかということです。

話題そのものの面白さもありますし、それをストーリーにして聞く相手の気持ちを引き込む表現力が問われました。

発声、発音、イントネーションなど、決勝に進むみなさんは一定のレベルをクリアしています。よく練習してきたからだと思います。それだけに、順位をつけるには甲乙つけ難い接戦となりました。だから、話の中身をどう面白くしていくかが、一つの決め手になりました。また、大変素質があって、今後伸びていくだろうと思ひ人もいて、まだそれが表現し切れていなくて、もったいない場合もありました。ぜひ今後も努力を続けていただければと思います。

アナウンス部門 熊野リカ先生

毎年高校生の発表を楽しみにさせていただいています。活気ある高校生のコンテストに、中学校の世界もこの様に活気付くと良いのにな、と良い工夫はないものか、といつも思います。チームで支え合っている姿を見て、アナウンスや朗読は個人だけど、その一人の発表にきっとたくさんの仲間の力が入っているのだろうと想像し、心が温かくなります。

今年のアナウンスは、先生紹介、部活紹介が多かったなと思います。だからこそ、ただの“紹介”で終わらず、何か一工夫ある原稿が光ったように感じました。

「きれいに話す」というのは、「伝わるように話す」ことであると私は認識しています。「かっこよく話す」ではない、と。ぜひ話しては伝えたいことを意識して、「耳で聞いた人が“わかる”ように」工夫して語って欲しいです。

朗読部門 秋元紀子様

一番多く感じたことは、決めた通りに読んでいるなということです。きちんと丁寧にしっかりとほしているのですが、それだけで、内容がこちらに伝わってこないのです。文字の説明をしているだけで、その奥にあるなぜそう書かれているのかがわかりません。また、そこをどうして読みたかったのか、この部分のどこに感動したのかがこちらに伝わってきません。なので、もやもやしてしまいました。声も出て、間も取れて上手なのですが。外からではなく、内からいきましよう。どうしてもこう読まずにはいられない、こう読みたいんだ！と。

朗読部門 高橋景子先生

技術的なレベルはとても高いなと驚きました。

その一方、各作品（特に近代文学や古典）の読解はまだ課題があるように感じました。

心情や情景の描写を今以上にしっかり読み深めることで、間を取る長さやテンポに、なんとなくではなく、必然性が生まれると思います。

近代文学や古典の朗読に挑戦するならば、作品世界を立体的に表現するために、その作品がかかれた時代背景、当時の生活習慣や文化なども調べる必要があるでしょう。

より多くの人々の胸を打つ朗読を目指して、今後も頑張ってください。

ラジオドキュメント部門 倉林由男様

音の世界は面白いです。人の心に入って行きやすく、自分たちの取材したものを聞き手にわかってもらいやすいです。ぜひトライしてみてください。

その際、大事ななのは、入り口。人のところは冷めやすいです。できるだけ最初のほうに、取材対象者の大事な言葉や、感情のあふれた部分を聞かせて、人の心をつかまないとはいけません。

何年かこのことを訴えてきましたが、今回はかなりの学校で、このことが「できて」いました！皆さんと、喜びたいと思います。

今回気になったのは、テーマとさらに高度なテクニック。地味な身近なテーマ設定をして、身近なことだけに迷ってしまっている感じがしました。ここは「身近なテーマこそ面白い！」と思いきましょう。その時に大事ななのは、「高校生の自分たちならどうするか？何ができるか？理解できるか？背伸びしない自分たちを出そう。」ということです。

取材対象者に大事な一言をもらったら、「では自分たちはどうするのか？」身近な人たちの言葉にたちもどって、もういちど現状をまとめましょう。理解できていないならば「できない。」という現状を伝えましょう。それだけで、立派に「身近なテーマについての取材レポート」になりますよ。けっして「お勉強」になってしまわないようにしましょう。では今後も頑張ってください！応援しています。

ラジオドキュメント部門 町田義広先生

どの作品も、身近なテーマを取り上げていて面白いものばかりでした。なかなか差がなく点数をつけるのが難しいですが、ポイントは「伝えられたか」だと思います。

取材するにあたり、公平性や信頼性を大切にしていきたいと思います。メッセージを番組で伝え、対立する意見を聞いていただく。そして考えていただくということです。

また、正しい情報を伝えることも重要です。だからこそ、その情報の信頼性も大切なのだと思います。

テレビドキュメント部門 秋山発様

各校ともに力の入った取材が多くて感心しました、また、取材内容をアンケート、データ、グラフで裏付けようという姿勢に好感が持てました。

ただアンケートやグラフが必ずしも効果的ではないケースがも少なくなく、(実際に?) 使用する場合、よく吟味した方が良いと思います。

創作ラジオドラマ部門 東海林桂様

毎年、この大会の作品を聞くのが楽しみです。高校生らしい発送やテーマもあれば、今の時代、流行を意識した作品もあります。構成力や脚本力が上手でも、やはり演技力というポイントは聞く人、作品に最も影響があります。出演者は演技力を最大に、脚本担当は、いつもの会話で、こんな話をしているかなど、身近な会話の中からドラマを創り出すことを最大限に考えて作品を生み出してください。決勝に残った作品間でも力量の差が大きいことも意識してください。

創作ラジオドラマ部門 熊本丈力先生

今日は発表を聞かせていただき、ありがとうございます。高校生としての感性で作られた高校生らしい作品の数々を楽しく聞くことができました。さらに素晴らしい作品を作る上で、何点か申し上げれば、

① ラジオという点では、音が勝負なので、聞いている人に音だけでどこまで作品の世界に入り込めるか。効果音やセリフに気を使うと良いと思います。

今回、セリフと音が被ってしまい、一部セリフが聞き取りにくいという学校があったのが残念でした。

② 最初の1分でどこまで、主人公に感情移入できるか、うまく情景は状況描写が伝わるかがポイントです。聞いている人に、もっと聞きたくなる。そんなつかみを最初に作れるようにセリフ、構成を工夫してください。

③ 他校の良い作品をどんどん聞きましょう。

良いところは学び、参考にしていくと良いと思います。

ぜひ、今後も数多く作品を製作してください。みなさんの活躍を期待しています。

創作テレビドラマ部門 柴田紀之様

みなさんが楽しんで制作している様子が作品から伝わってきて、制作者としてとてもうれしく思います。自分たちがたのしく作るから、観てくれる人にどう伝えるか、観てくれる人がどうしたら楽しくなるかを考えて政策が出来るようになると、もっと良い作品になると思います。

撮影や編集はプロの作品をたくさんみて、そのテクニックをマネて、ぬすんで下さい。そうする事で、技術的なレベルはもっと上がると思います。

更にクオリティが高くなった作品を見れる日を楽しみにしています。